

8/24
1945

「少国民」の時代 再来許せぬ

無職

(愛媛県 84)

70年前の8月15日正午、私は動員先の工場事務所の聞き取りがたいラジオ放送で終戦を知った。戦争の終結に解放感がふくらんだ記憶は、今も鮮明によみがえる。子どもにも「銃後を守る少国民」としての役割が課され、軍人による教練もあった。中学でも、出征で男手のない農家の芋掘りや稲刈りの手伝い、飛行場での土木作業、工場作業などの合間をぬっての授業だった。戦争の悲惨さ不条理さは骨身にしみていた。

国民全体でも国会議員で

も戦争体験のない層が多数を占めてきた現在、安全保障関連法案の審議の行方には非常に不安を覚える。自衛隊の活動は「後方支援」だというのが、戦時に前線と後方の区別が可能なのか。9条の「国の交戦権は、これを認めない」との籠^{かご}。これを解釈変更で緩めておいて、「徴兵制は憲法違反であり導入の余地はない」といわれても信じがたい。国民の安保法案への強い反対は、理解不足だけではなく、理解した上での反対が強く、政府への信頼が失われている表れでもある。戦前の歴史の再来は許せぬ。